

# 頭頸部がん患者の術後せん妄についての実態調査

## 研究の概要

術後せん妄とは「手術をきっかけにしておこる一過性の精神障害で、失見当識、意識混濁に加えて幻覚や異常行動が見られるような状態」と定義される病態です。術後せん妄を発症すると、点滴や生命維持に重要な管を抜いてしまうといった事故の生じる危険性が高く、手術後の管理が困難となります。また、特に高齢の方では入院期間が長期化してしまい、社会復帰へ支障をきたす場合もあります。

頭頸部のがん患者さんでは、その他のがん患者さんと比べ、術後せん妄の頻度が高く報告されています。その理由として、手術が長いことや、お酒をよく飲まれている方が多いことが考えられています。しかし、頭頸部のがん患者さんは、胃がんや大腸がん、肺がんなど他のがん患者さんと比べると数が少ないうえ、口腔がん、鼻副鼻腔がん、上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がん、唾液腺がんなど種類が非常に多いことが特徴としてあげられます。そのため、どのような方が術後せん妄になりやすいのかは、よく分かっていないという現状があります。もし、術後せん妄になりやすい方の特徴が明らかになれば、あらかじめ支援を検討することができるのではないかと考えています。

また、当院では、退院された患者さんを対象に、電話相談を行っています。術後せん妄を発症した患者さんについて、どの程度電話相談の対象に含まれているのか、どのような内容の電話相談を行っているのかは調べられていません。もし、この特徴が明らかになれば、入院中からご家族と一緒に退院後の生活について、もっと深く考えていけるのではないかと考えています。

## 研究の目的と意義

本研究では、手術後の経過の実態を明らかにすることを目的としています。術後せん妄の実態が明らかになれば、手術前から術後せん妄を発症しやすい患者に対する予防的手段の検討ができ、また、より個別性のもった退院後の生活指導が行えるようになることが期待できると考えています。

そのため、私たちはこの研究を行う意義は大きいと考えています。

## 研究の対象

2014年9月から2016年8月までの期間に、国立がん研究センター東病院頭頸部病棟に手術目的で入院された方々の診療録を対象とします。

## 研究の方法

本研究は、国立がん研究センター東病院の頭頸部病棟（4階B病棟）における診療情報（データ）を、院内で収集・解析する形式で行われます。収集するデータは、患者さんの年齢、性別、採血データ、手術前中後の状況などです。これらのデータを、手術後合併症の有無や、電話相談の有無、入院期間などと比較検討していきたいと考えています。

## 個人情報保護に関する配慮

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を使って管理しますので、個人情報が院外に出ることはありません。患者さんやご家族などからのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

### 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

研究責任者：角甲 純

〒 277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院看護部

FAX 04-7131-4724/TEL : 04-7133-1111